

身体障がい者から見えること

大津西小学校 6年 関原 里桜

私は、生まれつきの病気で長いきょうが歩けません。

小さい頃から車椅子を利用しています。一番よく使うのは大きなショッピングモールの中を移動する時です。その時にいちばん困るのは駐車場です。身体障がい者用駐車場は、必ずといっていいほど空いていることはありません。身体障がい者用駐車場は障がいのある人やお年寄り、妊婦さんが利用することができます。しかし、どう見てもそれにあたらない人がとめているのを見かけたりします。そして利用したい人の数に比べて、身体障がい者用駐車場の数はとても少ないです。だから入り口からとても遠い所に車をとめて車椅子で移動することになります。せっかく身体障がい者用駐車場というものがあるのに、利用できないことにモヤモヤとした気持ちになります。

次に困るのは、トイレです。身体障がい者用トイレは必ず一つしかありません。このトイレも、子ども連れや障がい者が利用します。そして、このトイレを利用する人は入ってから出てくるまでに時間がかかります。待っている時、こんなに使う人がいて時間もかかるのに、なんで一つしかないのだろうと思います。

買い物をしていると困るのはせまい道路です。必ずといっていいほど通れない所があります。行きたいのにいけずにあきらめることが多々あります。少し心残りの気持ちになります。

私は、車椅子を使うので、買い物だけをとっても、これだけの不便さを感じます。身体障がい者用の設備を使わない人たちには、こんな不便なことやあきらめ、悲しい気持ちはないんだろうなと思います。私はこの気持ちの差があることがおかしいと思います。障がい者だから仕方ないとかじゃなくて、どの人も楽しい気持ちで過ごせる場所であるべきです。私は、ショッピングモールを例にしましたが、どんな場所や人でも平等な生活ができる世の中になってほしいなと思います。

誰もが輝ける社会をめざして

左の作文には、小学校6年生の児童が自分の経験を通して感じていることを素直にかつ鋭い人権の視点で、力強く書いた作文です。

言うまでもなく、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人は、大切にされなければならないかけがえのない存在です。それは、単に知識を学ぶだけでなく、学んだことをどのように行動・実践につなげていくかということが大切です。学びに年齢は関係ありません。そのことを踏まえ、自分もまわりの人も大切にできる自分、誰もが輝ける社会を生産をとおしていかにつづいていくかということが一人ひとりに問われているのです。

人権教育総合推進地域事業

鳴門市では、2016年度も昨年度に引き続いて、文部科学省の研究指定を受け、「人権教育総合推進地域事業」を進めてきました。これは、中学校区を単位として、地域全体で人権意識を培い、人権尊重の精神を高めるために、学校や家庭、地域が一体となった取組を市教育委員会との連携・協力の下で推進するものです。

鳴門市では、この事業を市内の5つ、すべての中学校区で実施しています。子どもから大人までが、ともに学べる学習機会の充実を図って、今年度も人権フェスティバルを始め、特色ある取組を行いました。



中学校区 人権フェスティバル



小・中合同教職員海外研修帰郷

今年度は、市内3中学校の生徒が、アイデアを出し合い、それぞれの学校で人権啓発スポット番組をテレビ鳴門の協力の下、制作しました。3月末までテレビ鳴門で、放映されています。人権尊重のまちづくりへ中学生の思いをこめた発信です。



鳴門市第二中学校



鳴門市鳴門中学校



鳴門市第三中学校